

令和4年度 専科（第49期） 試験問題

【財務諸表論（個資徴班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机中には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないこと。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B又は2Bに限る。）
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
電卓（演算機能のみを有するものに限る。）
腕時計（通信機能を有しないものに限る。）
- 2 答案用紙の追加配付は行わない。
書き損じた場合は、使用した筆記用具により次のとおり対応すること。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないこと。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないこと。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じない。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げること。
- 6 解答の記載に当たっては、丁寧に書くこと。
判読できない場合は、採点されない場合や減点される場合がある。
- 7 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合がある。

【第1問】

買入のれんについて、次の問1から問2までの各問に答えなさい。なお、負ののれんについては解答する必要はない。

問1 買入のれんの会計処理については、①「買入のれんを定期的に償却する」会計処理と②「規則的償却は行わず、買入のれんの価値が損なわれたときに減損処理を行う」会計処理がある。①及び②の会計処理の論拠のうち、主要なものを2つずつ述べなさい。

問2 企業会計基準第21号「企業結合に関する会計基準」に従い、買入のれんの①会計処理及び②開示について簡潔に述べなさい。

【第2問】

資産除去債務について、企業会計基準第18号「資産除去債務に関する会計基準」（以下「企業会計基準第18号」という。）に従い、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 資産除去債務の定義を述べなさい。

問2 資産除去債務の会計処理については、引当金処理と資産負債の両建処理という2つの方法がある。企業会計基準第18号は、これらの方法のうち、資産負債の両建処理を採用している。企業会計基準第18号が資産負債の両建処理を採用している論拠を述べなさい。

問3 資産除去債務に対応する除去費用は、関連する有形固定資産の帳簿価額に含める。この会計処理について、①資産除去債務に対応する除去費用を、有形固定資産の別の資産として計上しない論拠、及び②資産除去債務に対応する除去費用を、有形固定資産の帳簿価額に含める論拠を述べなさい。

【第3問】

顧客との契約の中には、ライセンスを供与する約束に加えて、他の財又はサービスを顧客に移転する約束があることもある。企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」では、ライセンスを供与する約束が他の財又はサービスを顧客に移転する約束と別個のものである場合には、ライセンスを供与する際の企業の約束の性質を2つに区別し、それぞれの性質に応じて会計処理が定められている。ライセンスを供与する際の企業の約束の性質を2つ述べるとともに、どのように会計処理するかについて述べなさい（それぞれの企業の約束の性質と会計処理を解答用紙の<企業の約束の性質①>及び<企業の約束の性質②>に記載すること）。なお、解答に当たっては、知的財産の性質及び支配の概念にも触れること。

令和4年度 専科（第49期） 試験問題

【財務諸表論（法人課税班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机中には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないこと。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B又は2Bに限る。）
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
腕時計（通信機能を有しないものに限る。）
- 2 答案用紙の追加配付は行わない。
書き損じた場合は使用した筆記用具により次のとおり対応すること。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないこと。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないこと。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じない。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げること。
- 6 解答の記載に当たっては、丁寧に書くこと。
判読できない場合は、採点されない場合や減点される場合がある。
- 7 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合がある。

【第1問】

有形固定資産の圧縮記帳に関して、次の問1から問3の各問に答えなさい。

問1 有形固定資産の会計において圧縮記帳が認められる理由を簡潔に説明しなさい。

問2 「保険差益」について圧縮記帳が認められる理由を簡潔に説明しなさい。

問3 「国庫補助金」について、「積立金方式」により処理する場合と「圧縮記帳（直接控除）方式」により処理する場合の違いを、簡潔に説明しなさい。

【第2問】

引当金の会計に関して、次の問1から問3の各問に答えなさい。

問1 引当金の設定要件について、「貸倒引当金」を用いて簡潔に説明しなさい。

問2 「退職給付引当金」の特徴について簡潔に説明しなさい。

問3 「退職給付引当金」の情報開示について個別財務諸表と連結財務諸表で異なる部分を簡潔に説明しなさい。

【第3問】

会計基準に関して、下記の間1から問3の各問に答えなさい。

問1 「収益費用アプローチ」と「資産負債アプローチ」の違いについて簡潔に説明しなさい。

問2 会計基準に準拠して作成された会計情報が持つ「2つの機能」について簡潔に説明しなさい。

問3 会計基準における会計代替案の選択について、「継続性の原則」と「企業の機会主義的行動」に関わらせながら簡潔に説明しなさい。